

草津市立矢倉小学校通信 令和3年3月1日 NO.22



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## むずかしい勉強は何ですか？

この春、小学校へ入学してくる子どもたち、そしてその保護者の方々にお話をさせてもらう機会が果たされた。

子どもたちから、小学校には子どもが何人いるのか、給食のおかずになんが出ているのか、休み時間は何をして遊ぶのかといった質問を受けた。私なりに、入学前の子どもたちにわかりやすいよう説明していったのだが、なんと答えに窮したものがあつた。それは、むずかしい勉強は何かというものだ。

むずかしさは、人によって違う。だから、これというものは決まってない…などと、あっさりとお答えすることもできた。しかし、問いかけたのは入学前の子どもたちである。しっかり自身の思いが語れないはずだ。きっとそこには子どもなりの思いがあるにちがいない。むずかしくて、できなくて、こまってもあきらめずがんばらねばという決意や、他の人にとってはむずかしくても自分にとっては簡単なことにちがいない、ほめてもらおう…などといった期待があるかもしれない。ひょっとすると、保身に走り、できなくて叱られたらイヤだな、まわりの人にバカにされたらどうしよう、お兄ちゃんやお姉ちゃんが怒られている勉強なんかやるもんか、でもどうしよう…そんな不安があり、その裏返しとして質問せずにいられなかったのかもしれない。なんとか前向きに、愉しんでできるようにしたい。こうした勝手な思いが私の心の中に渦巻いてしまって、ついつい子どもたちへの説明が長くなってしまった。

「…勉強というのはね、よくわかるようになると、とっても愉しくて、もっとやりたい、もっと知りたい、調べたいというようになっていきます。そうすると、少しくらいややこしくて面倒なことでも、よしやってやろうという気持ちになって、できるようになります。するとすごくうれしくなってもっとうまくなっていきます。不思議です。もちろんむずかしいな、できないな、どうしようかなというときもあります。そうならないようにするためには、話をよく聞いたり、手本をよく見たりするといいです。それでも、どうしてもわからないときは、『わからないよう…』、『うまくできないから、おしえてほしいな…』というように、友だちや先生、おうちのの人にたずねるといいです。そして、ぜひとも大事にしてほしいことがあります。それは、いっしょに勉強していて、できなくて困っているのかなと感じたら、『どうしたの？』『いっしょにやってみない？』などと、声をかけあうようにするということです。だれも、はじめから、うまくできる人はいません。安心がいちばんです。」

つづいて、保護者の方たちには、むずかしい勉強というのは何かということをもぐって、お話した。

それは、子どもがわからなかったり、できなかつたりしたとき、そばにいる大人の受けとめ方には気をつけてもらいたいということだ。つまり、ただでさえうまくできなくて不安になっているところに、「こんなかんたんなこともできないのか」というさげすみや叱責、「大人になったらもっと困るぞ」といった脅しなどが加わるとどうだろう。意欲は半減どころか、ものの見事に打ち砕かれてしまう。こうなると勉強をむずかしくしているのは、実は大人だということに…。これは避けてもらいたい、と。

みんな生まれた時は、赤ちゃんで、さまざまにお世話になって大きくなってきたはずだ。だからこそ、勉強はどれもそれなりにむずかしく、だから愉しみにもなり、おもしろい…。そのようであってほしい。

校長 大林 道範